

平成27年度練馬区立豊溪小学校 学校評価報告書

練馬区立豊溪小学校  
校長 渡邊 重幸

学校教育目標  
◎考える子 ○やさしい子 ○たくましい子  
知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を身に付けた児童の育成を目指す

目指す学校像(ビジョン) 笑顔あふれる学校 ～感動の共有～  
①「わかるようになった」「できるようになった」喜びにあふれる学校  
②人とのかわわりを大切に、仲良く助けあう優しさあふれる学校  
③体も心も鍛え、生き活きとした元氣あふれる学校  
④家庭及び地域社会に信頼される、開かれた学校

1 自己評価結果

| 領域  | 中期経営目標  | 短期経営目標   | 具体的方策                                       | 評価指標・評価基準                           |                |                                      |                     |                               |     |                               |     |
|---|---|--|---|-------------------------------------|----------------|--------------------------------------|---------------------|-------------------------------|-----|-------------------------------|-----|
|   |   |  |   | 努力指標                                | 評価             | 成果指標                                 | 評価                  |                               |     |                               |     |
| 確かな学力の向上  | 基礎・基本を大切に、児童が主体的に学ぶ授業を行い、思考力・判断力・表現力を身につけた児童を育成する | 個に応じた指導を充実し、基礎・基本を確実に身に付けさせる                             | 算数科で名簿、座席表に児童の単元の過程における学習状況を記録し、次時の指導に活かす   | 4 学習状況の記録、指導に活かすことを8回以上実施(7、2月)     | 3.1            | 4 算数の知識、技能の2観点で評定B以上が学級の90%以上        | 3.2                 |                               |     |                               |     |
|   |   |  |   | 3 学習状況の記録、指導に活かすことを6回以上実施(7、2月)     |                | 3 算数の知識、技能の2観点で評定B以上が学級の80%以上        |                     |                               |     |                               |     |
|   |   |  |   | 2 学習状況の記録、指導に活かすことを4回以上実施(7、2月)     |                | 2 算数の知識、技能の2観点で評定B以上が学級の70%以上        |                     |                               |     |                               |     |
|   |   |  |   | 1 学習状況の記録、指導に活かすことを3回以下(7、2月)       |                | 1 算数の知識、技能の2観点で評定B以上が学級の70%未満        |                     |                               |     |                               |     |
|   |   | 問題解決的な学習を充実させ、思考力・判断力、表現力を身につけさせる。                       | 算数科の授業で、課題を明確にし、児童が考え、発表し、課題についてまとめる授業を行う   | 4 課題を明確にし、児童に考えさせる授業を実施(90%以上)      | 3.2            | 4 算数の思考の観点で評定B以上が90%以上               | 2.5                 |                               |     |                               |     |
|   |   |  |   | 3 課題を明確にし、児童に考えさせる授業を実施(80%以上)      |                | 3 算数の思考の観点で評定B以上が80%以上               |                     |                               |     |                               |     |
|   |   |  |   | 2 課題を明確にし、児童に考えさせる授業を実施(70%以上)      |                | 2 算数の思考の観点で評定B以上が70%以上               |                     |                               |     |                               |     |
|   |   |  |   | 1 課題を明確にし、児童に考えさせる授業を実施(70%未満)      |                | 1 算数の思考の観点で評定B以上が70%未満               |                     |                               |     |                               |     |
|   |   | 読書活動を推進し、読書習慣を確立する                                       | 火、金曜日の朝の時間を活用し、読書に慣れ親しませる                   | 4 朝、教室で児童の様子を把握し、必要な指導を実施(100%)     | 3.3            | 4 10分間、落ち着いて読書に取り組める児童が100%          | 2.9                 |                               |     |                               |     |
|   |   |  |   | 3 朝、教室で児童の様子を把握し、必要な指導を実施(90%以上)    |                | 3 10分間、落ち着いて読書に取り組める児童が90%以上         |                     |                               |     |                               |     |
|   |   |  |   | 2 朝、教室で児童の様子を把握し、必要な指導を実施(80%以上)    |                | 2 10分間、落ち着いて読書に取り組める児童が80%以上         |                     |                               |     |                               |     |
|   |   |  |   | 1 朝、教室で児童の様子を把握し、必要な指導を実施(80%未満)    |                | 1 10分間、落ち着いて読書に取り組める児童が80%未満         |                     |                               |     |                               |     |
| 豊かな心の育成   | 自他の生命を尊重し、互いに認め合える豊かな心を育成する                       | 笑顔で明るいあいさつと返事ができ、温かい言葉遣いができる態度を育成する                      | 教職員が明るいあいさつを励行するとともに、あいさつ、言葉遣いの指導を全校で重点的に行う | 4 教員自ら明るいあいさつ、言葉遣いの指導を実施(90%以上)     | 3.6            | 4 自分から明るいあいさつができる児童が90%以上            | 2.3                 |                               |     |                               |     |
|   |   |  | 3 教員自ら明るいあいさつ、言葉遣いの指導を実施(80%以上)             | 3 自分から明るいあいさつができる児童が80%以上           |                |                                      |                     |                               |     |                               |     |
|   | いじめを撲滅するために、アンテナを高くし、いじめを早期発見し、早期解決する             | ふれあい月間における調査や普段の生活を通して実態把握するとともにSCおよび心のふれあい相談員と連携を図り対処する |   | 2 教員自ら明るいあいさつ、言葉遣いの指導を実施(70%以上)     | 3.3            | 2 自分から明るいあいさつができる児童が70%以上            | 2.5                 |                               |     |                               |     |
|   |   |  |   | 1 教員自ら明るいあいさつ、言葉遣いの指導を実施(70%未満)     |                | 1 自分から明るいあいさつができる児童が70%未満            |                     |                               |     |                               |     |
|   |   |  |   | 4 教員自ら児童に声をかけ、様子を把握し必要な指導を実施(90%以上) |                | 3.3                                  |                     | 4 毎日登校し、明るい学校生活を送っている児童が90%以上 | 3.5 |                               |     |
|   |   |  |   | 3 教員自ら児童に声をかけ、様子を把握し必要な指導を実施(80%以上) |                |                                      |                     | 3 毎日登校し、明るい学校生活を送っている児童が80%以上 |     |                               |     |
|   |   |  |   | 2 教員自ら児童に声をかけ、様子を把握し必要な指導を実施(70%以上) |                | 3.4                                  |                     | 2 毎日登校し、明るい学校生活を送っている児童が70%以上 | 3.2 |                               |     |
|   |   |  |   | 1 教員自ら児童に声をかけ、様子を把握し必要な指導を実施(70%未満) |                |                                      |                     | 1 毎日登校し、明るい学校生活を送っている児童が70%未満 |     |                               |     |
|   |   |  | 健康な生活                                       | 安全な環境を整え、体力の向上、健康の維持増進を図る           |                | 昨年度の校内研究の実践事例や講師による指導を通して、体育の授業を改善する |                     | 4 体育の授業改善を4点以上実施              | 3.3 | 4 体育の関心、思考、技能の3観点で評定B以上が90%以上 | 3.2 |
|   |   |  |   |                                     |                |                                      |                     | 3 体育の授業改善を3点実施                |     | 3 体育の関心、思考、技能の3観点で評定B以上が80%以上 |     |
|   | 2 体育の授業改善を2点実施                                    | 2 体育の関心、思考、技能の3観点で評定B以上が70%以上                            |   |                                     |                |                                      |                     |                               |     |                               |     |
|   | 1 体育の授業改善を1点以下実施                                  | 1 体育の関心、思考、技能の3観点で評定B以上が70%未満                            |   |                                     |                |                                      |                     |                               |     |                               |     |
|   | 4 食に関する指導の年間計画に基づいた指導の実施(90%以上)                   | 2.6  |   |                                     | 4 残滓無しの日が80%以上 | 2.9                                  |                     |                               |     |                               |     |
| 食育指導を充実させ、食や自らの健康に対する意識を高め、健康の維持増進のための実践力を身に付ける | 食に関する指導計画に基づき、給食指導を充実させる                          |  |   | 3 食に関する指導の年間計画に基づいた指導の実施(80%以上)     | 3 残滓無しの日が50%以上 |                                      |                     |                               |     |                               |     |
|   |   |  |   | 2 食に関する指導の年間計画に基づいた指導の実施(70%以上)     | 2 残滓無しの日が20%以上 |                                      |                     |                               |     |                               |     |
|   |   |  |   | 1 食に関する指導の年間計画に基づいた指導の実施(70%未満)     | 1 残滓無しの日が20%未満 |                                      |                     |                               |     |                               |     |
|   |   |  |   | 4 学期4回以上発行する                        | 3.4            |                                      | 4 保護者アンケートで良好が90%以上 | 3.1                           |     |                               |     |
|   | 家庭、地域に信頼される、開かれた学校づくりを推進する                        | HPやたより、年3回の学校公開などで教育活動の様子などを伝える                          |   | 3 学期3回以上発行する                        |                | 3 保護者アンケートで良好が80%以上                  |                     |                               |     |                               |     |
|   |   | 2 学期2回以上発行する   | 2 保護者アンケートで良好が70%以上                         |                                     |                |                                      |                     |                               |     |                               |     |
|   |   | 1 学期1回以上発行する   | 1 保護者アンケートで良好が70%未満                         |                                     |                |                                      |                     |                               |     |                               |     |

2 学校関係者評価

| 領域       | 中期経営目標  | 短期経営目標                             | 具体的方策                                     | ○成果と△課題   | 改善策   | 評議員からのコメント  |
|----------|---|------------------------------------|---|---|---|---|
| 確かな学力の向上 | 基礎・基本を大切に、児童が主体的に学ぶ授業を行い、思考力・判断力・表現力を身につけた児童を育成する | 個に応じた指導を充実し、基礎・基本を確実に身に付けさせる       | 算数科で名簿、座席表に児童の単元の過程における学習状況を記録し、次時の指導に活かす | <p>○朝学習で毎週計算テスト(算数チャンピオン)を行い、計算が苦手な児童が減った。(まとめテストの満点が全児童の7割)</p> <p>○少人数指導教員及び学力向上支援講師との連携により習熟度に応じた授業が行えるようになった。</p> <p>○宿題や家庭学習を定着させ、次時の授業に活かすことができた。</p> <p>○座席表を活用し、できる範囲で記録することにより、児童の課題が明らかになり、継続的な指導をすることができた。</p> <p>△1時間の授業内で、全員の児童の学習状況を把握し、記録することが時間的に厳しい。</p> <p>△能力差が大きく個に対応することが難しい。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中で、こちらが把握すべき観点を明確にし、的を絞って記録する。また、学習状況を記録する児童を数名に絞り、記録するようにする。</li> <li>・単元毎に一度はノートを集めて記録する。</li> <li>・休み時間や給食の準備中などの時間を活用して、個別指導で対応する。</li> <li>・小テストを繰り返し実施し、間違った問題については再テストをするなど定着を図る。</li> <li>・家庭と連携して、低学年から家庭学習の習慣を身に付けさせる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が教師の説明を熱心に聞いていて感心した。</li> <li>・教師と児童の意思疎通が出来ている。</li> <li>・いくつかのパターンで、先生の例を提示したが、児童の発想が豊かで感心した。こういう子供たちを育ててほしい。</li> <li>・それぞれの児童に対応して、確認して進めている。</li> <li>・立体的な図形に興味をもつことがよくわかった。</li> </ul>                     |
|          |   | 問題解決的な学習を充実させ、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。 | 算数科の授業で、課題を明確にし、児童が考え、発表し、課題についてまとめる授業を行う | <p>○今年度の校内研究のテーマ「筋道を立てて考える児童の育成」を意識した授業が展開され自分の考えを発言できる児童が増えた。</p> <p>○事前にノートに自分の考えをまとめておくことで、発表の際、詰まらなく意見を言うことができる児童が増えた。</p> <p>△児童の語彙だけでは、課題を分かりやすくまとめるには不十分であり、自分の考えを相手に分かるように伝える練習が必要である。</p> <p>△発表内容をノートにまとめるのに時間がかかるので、教員が児童の考えをまとめている</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体となって意見をまとめる経験をさせ、徐々に分かりやすくまとめる力を身に付けさせていく。</li> <li>・まずは自分の考えをノートに書かせる習慣を身に付けさせ、担任が確認する。</li> <li>・どの児童も、自分の考えをもち発表できるように、ねらいを明確にしたり内容を精選したりして、授業改善に努める。</li> <li>・児童の「自分の考え」は、言葉や図、絵や表であっても認め、教師が言葉で課題と結びつくように紹介するなどの手立てをとる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年になるにつれ難しさが増し児童は苦勞をしている。授業の導入と継続できる授業をこれからも取り入れてほしい。</li> <li>・ノート指導も丁寧に行っている。先生が板書し見本を示し、わからなければもう一度やらせている。</li> <li>・児童の声が小さい。下を向いて発言している。相手にわかるように話していけるよう指導してほしい。</li> <li>・普段の生活の中で分数を活用しているので良い。</li> </ul> |
|          |   | 読書活動を推進し、読書習慣を確立する                 | 火、金曜日の朝の時間を活用し、読書に慣れ親しませる                 | <p>○朝読書を毎週行ったことで、読書に親しむ児童が増えた。また、進んで読書をする児童の姿が見られた。</p> <p>○読書旬間を工夫し、読書の習慣が身に付いてきた。また、図書室の活用も増えた。</p> <p>○金曜日の読み聞かせが定着し、好んで読書をする児童が増えた。</p> <p>○火曜日は、担任もついて読書できるようになったため、15分間、落ち着いて読書に取り組むことができるようになった。</p> <p>△毎回、同じような内容の本を読んだり、ジャンルが偏っている児童がいる。</p> <p>△取りかかるまでに時間がかかる児童がいる。</p> <p>△読書については、個人差が大きい。読書の時間以外に本を読まない児童もいる。</p> <p>△読書ノートの活用に差が出る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書や国語の時間を活用して、様々な本にふれる機会を設定する。</li> <li>・読書に適した本がいつもそばにあるよう、定期的に確認をしていく。</li> <li>・今後も、火曜日の読書タイムは担任と一緒に読書をして、習慣づける。</li> <li>・個に応じた読書ができるよう、学年にとらわれない図書の紹介ができるようにしていく。</li> <li>・読書ノートは、内容を簡単にし、書きやすくする。</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭環境が大事である。親が読んで感銘した本など親子読書の機会があるとよい。</li> <li>・一般的に家庭に本が少ないと感じる。</li> <li>・読書は忍耐力が付き、達成感が得られるので良い。</li> </ul>  |

| 領域      | 中期経営目標                      | 短期経営目標                                     | 具体的方策  | ○成果と△課題   | 改善策   | 評議員からのコメント  |
|---------|-----------------------------|--|--|---|---|---|
| 豊かな心の育成 | 自他の生命を尊重し、互いに認め合える豊かな心を育成する | 笑顔で明るいあいさつができ、温かい言葉遣いができる態度を育成する           | 教職員が明るいあいさつを励行するとともに、あいさつ、言葉遣いの指導を全校で重点的に行う              | <p>○こちらから挨拶すると、元気よく挨拶を返し、登校時も挨拶をする児童が増えた。</p> <p>○あたたかい言葉かけを指導することで、児童の間に認め合える心が芽生えてきた。</p> <p>△挨拶が当たり前のできる児童と、全く意識がない児童に分かれている。</p> <p>△目上の人に対する言葉使いや、担任以外の教員にも明るく挨拶することが目標である。</p> <p>△基本的な挨拶はできるが、自分から進んでできる児童は少ない。</p> <p>△まだ友だちに対して乱暴な言葉が飛びかう場面がある。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の時間や毎日の朝の会や帰りの会を通して挨拶の大切さや言葉使いの指導を行う。</li> <li>・担任以外の教員や主事さんなど、校内で見かけた人に、自分から挨拶ができるよう指導する。</li> <li>・繰り返し指導するとともに、どのような挨拶がよいのか、事例を取り上げて指導していく。</li> <li>・挨拶も言葉遣いも、教員が気を付けることが重要だが、保護者への呼び掛けをもっと多くする。</li> <li>・児童の間にも、お互いを認め合える雰囲気醸成されるよう、教師自身があたたかい言葉遣いを徹底する。</li> <li>・人権教育プログラムの『あなたの人権感覚』を</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつは、社会生活の第一歩であり、友人を作る第一歩である。あいさつが上手になると受容と許容のバランスがとれていじめがなくなる。</li> <li>・あいさつで、学校だけでなく家庭と近隣との和が向上する。</li> <li>・あいさつが少なくなってきたと感じる。大人からあいさつをすれば必ずできるようにする。</li> </ul> |
|         |                             | いじめを撲滅するために、アンテナを高くし、いじめを早期発見し、早期解決する      | ふれあい月間における調査や普段の生活を通して実態把握するとともにSCおよび心のふれあい相談員と連携を図り対処する | <p>○毎週行っている生活指導朝会で、気になることを報告し合い共有することで、おおきなトラブルは起こっていない。</p> <p>○ふれあい月間に行う調査で、気になる児童に対して個別に対応することができた。</p> <p>○SCや心の相談員、学校生活支援員との連携により、いじめを未然に防ぐことができたケースがある。</p> <p>△自己中心的で友達への思いやりに欠ける態度をとる児童がいる。</p> <p>△友達とうまく関われない児童がいる。</p> <p>△さらに道徳の授業を充実させる。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・もし、いじめに気づいたときはすぐに指導するとともに自らの行動を振り返らせる。</li> <li>・友達の良いところや褒めたいところを発表する場面を設定する。</li> <li>・心配な児童に関しては積極的にSCや心の相談員に相談し連携を図る。</li> <li>・友達とうまくかかわらせるためにアサーショントレーニングや(構成的グループ)エンカウンターを取り入れる。</li> <li>・実態に合わせた道徳の授業を計画し実践する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・許されるいじめは絶対ない。徹底して指導してほしい。</li> <li>・家庭環境やその他でなかなか改善できない環境に置かれている児童の見取りをしていく必要がある。</li> </ul>  |
| 領域      | 中期経営目標                      | 短期経営目標                                     | 具体的方策  | ○成果と△課題   | 改善策   | 評議員からのコメント  |
| 健康な生活   | 安全な環境を整え、体力の向上、健康の維持増進を図る   | 体育の時間、体育的行事、体育朝会、休み時間等を活用し、児童の運動能力、体力向上を図る | 昨年度の校内研究の実践事例や講師による指導を通して、体育の授業を改善する                     | <p>○昨年度の指導により、基本的な体育の授業の流れや指導計画の作成の仕方が分かり、実践できるようになった。</p> <p>○休み時間は、教員も一緒に外遊びをすることで、校庭で元気に遊ぶ児童が増えた。</p> <p>○体育の時間、校内研究で学んだことを活かしたり、元気いっぱいカードを活用したりして、児童が意欲的に運動に取り組むようになった。</p> <p>○縄跳び旬間やマラソン月間を通して運動する習慣が身に付いてきた。</p> <p>○5年生に元オリンピック選手(バレーボール)の杉山祥子さんを招聘し講義と実践をしていただき、興味関心をもった児童が増えた。</p> <p>△全ての単元で、細かい指導計画を立てるのが力量的にも時間的にも難しい。</p> <p>△運動能力の個人差が大きい</p> <p>△寒い時期に外遊びをしない児童がいる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導書、丸わかりハンドブックを参考にして指導計画を立てて、それを実践していく。</li> <li>・個に応じた場の設定や声がけをしていく。</li> <li>・体育の授業では説明を端的にし、運動量を増やす。</li> <li>・今後もトップアスリートを招聘し一緒に活動することで、運動の楽しさを味わわせる。</li> <li>・寒い時期でも教員が声がけをして、率先して20分休みに外遊びを行う。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の授業で楽しむ仕組みを作ってくれた。</li> <li>・休み時間、教師が外遊びを一緒にしていてありがたい。</li> <li>・体育の授業のチーム活動は、互いに協力する、技術が向上するなど大切である。今後もチーム活動を取り入れてほしい。</li> </ul>                                  |

| 領域    | 中期経営目標                    | 短期経営目標  | 具体的方策                    | ○成果と△課題   | 改善策  | 評議員からのコメント  |
|-------|---------------------------|---|--------------------------|---|--|---|
| 健康な生活 | 安全な環境を整え、体力の向上、健康の維持増進を図る | 食育指導を充実させ、食や自らの健康に対する意識を高め、健康の維持増進のための実践力を身に付ける | 食に関する指導計画に基づき、給食指導を充実させる | <p>○全体的によく食べ、完食することがほとんどである。</p> <p>○最初の10分は黙って食べる約束を徹底してきた。</p> <p>○好き嫌いは多少あるが、係を中心としてクラス全体で完食しようという意識は高まっている。</p> <p>○しっかり食べることのできる児童が増えてきた。</p> <p>△苦手な物を食べることや自分の食べられる量に合わせて、食事の量を調整していくことが課題である。</p> <p>△食べるのが遅くて時間内に終わらない児童がいる。</p> <p>△給食のマナーが悪い。</p> <p>△指導計画をもとに食について指導することが忘れがちである。</p> <p>△好き嫌いの激しい児童がいる。食に対する意識についても個人差</p> | <p>・好き嫌が多い児童には、引き続き少しでも食べるという指導を根気強く続ける。</p> <p>・時間内に食べられる量を盛りつける。</p> <p>・給食の時間を意識して食べるように指導する。</p> <p>・好き嫌い、偏食については、保護者への協力を求め改善を図る。</p> <p>・家庭科の授業を中心に食の大切さをよりよく伝え、さらに食についての意識を高めていく。</p> <p>・食育指導を計画的に進め、栄養士と連携し給食の充実を図る。</p> <p>・保護者への食育指導を行ったり、子供向けの出前授業を行ったりして、食の重要性を理解させる。</p> | <p>・残滓を減らすためにも給食の量の調節など子供から言えるようにしてほしい。</p> <p>・家族団らんのように楽しく食事ができることよい。</p> |

| 領域     | 中期経営目標                     | 短期経営目標                 | 具体的方策                        | ○成果と△課題   | 改善策  | 評議員からのコメント  |
|--------|----------------------------|------------------------|------------------------------|---|--|---|
| 開かれた学校 | 家庭、地域に信頼される、開かれた学校づくりを推進する | HPやたよりなどで教育活動の様子などを伝える | A4版程度の学級、専科だよりで学級や授業の様子を知らせる | <p>○HPを週2、3回アップし、学校の様子、児童の様子を伝えることができた。特に移動教室はリアルタイムに学校日記に写真を載せ保護者から好評をいただいた。</p> <p>○毎週定期的に学級便りを発行することで、保護者のクラスに対する理解が深まってきた。</p> <p>○時には学級通信を保護者だけでなく、児童に向けての内容にしたこともあった。</p> <p>○学校公開の際に掲示物を工夫し、学校の様子がわかるようにした。</p> <p>△計画的に発行することができないときがあった。</p> <p>△お便りをあまり読んでいない家庭がある。</p> | <p>・保護者にクラスの様子が伝わるように継続的に発行していく。</p> <p>・月1回のペースで、無理なく続けて行く。</p> <p>・連絡だけににならないよう、内容を工夫していきたい。</p> <p>・保護者会等でお便りについて現状を報告し、親の意識を高めていく。</p> | <p>・学校便り、学校HPなど折に触れ見ている。家庭・学校・地域の関係は非常に大切である。</p> <p>・発信力、情報交換力、地域交流力、この循環を上手に回してほしい。</p> <p>・PTA、学校応援団などの活動が大事である。</p> |

### 3 評価結果の公表

自己評価、学校関係者評価については、ホームページで公表する。教育活動アンケート(児童、保護者、教員)については、すでに印刷物で公表している。

### 4 次年度の学校改善へ向けた校長の見解

・確かな学力の向上、豊かな心の育成、健康な生活、開かれた学校など家庭・地域との連携が重要である。家庭や地域への啓発を工夫、強化することが改善のための一つの鍵になる。具体的な方策を発信し改善を図っていく。

・次年度140周年を迎える。伝統ある本校は地域の期待も大きい。期待に応えるためにも今年度の反省をもとに考えた改善策を、まずは確実に実行していく。PDCAサイクルを活かして、年度途中でも改善策の妥当性を吟味し、必要に応じて見直しをしていく。学校経営計画等の視覚化、自己申告や授業観察の活用等行い、教員の改善に対する意識を高めるとともに、よい実践の共有を進める。